

【視察調査報告書】

会 派 名	八王子市議会公明党
参 加 議 員	【議員】 6名 村松徹 中島正寿 渡口禎 久保井博美 日下部広志 森重博正
日 程	令和8年（2026年）5月1日（金）
詳 細	
視 察 先	東京都府中市役所
視 察 内 容	府中市の心不全リスク検査事業における実施までの経緯と成果、展望
概 要	<p>【はじめに】</p> <p>府中市は都内自治体で唯一、心不全リスク検査を市民向けに無料で実施している。正確には「心不全予防啓発事業」といい、特定健診の際、同じ採血管で検査する。府中市内の 81 医療機関でこの心不全リスク検査を受けられる。費用は 3,000 円で、全額を府中市が補助している。当初は 75 歳の市民を対象にスタートしたが、2026 年 4 月より従来の 75 歳に 65 歳も検査対象に加えた。</p> <p>事業概要・実績、事業化に至る背景・経過、今後の展望について視察したものを以下に報告する。</p> <p>【概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目的＝「心不全の発症や重症化を未然に防ぐ」 ・検査概要＝採血により NT-proBNP を測定 <p>NT-proBNP は心臓を守るために心臓から分泌されるホルモン BNP の副産物であり、血中で安定していると言われる。正常値は 55pg/ml (ピコグラム・パー・ミリリットル)。数値が高くなるほど心臓に負担がかかっていることを示す。</p> <p>府中市は、NT-proBNP 値を 125pg/ml 以上の場合、「リスクあり」とし、要精密検査の対象と設定した。</p> <p>検査の流れは、6月に受診券を個別送付し、その一か月後の7月から翌年1月までの期間、市内医療機関(81 機関)で受診する格好。府中市の健診と同時に受診できる仕組みとした。</p> <p>この検査はあくまで、「心不全の診断」ではなく、「リスク確認」を目的とした事業との位置づけ。しかし、検査の結果、リスクありと認知された段階で精密検査、経過観察に繋げることになっている。</p>

【理由・背景】

- ・背景＝① 心不全リスクの上昇が臨床現場で報告されている
- ② 心不全が高齢期における死亡要因の第 2 位(1 位はガン)となっている

・事業実施に至る経緯と推移

2023 年度 府中市医師会がパイロット事業として NT-pro
BNP 測定を実施

2024 年度 市事業として 75 歳対象に心不全予防啓発事業開始

2026 年度 対象に 65 歳市民を加える

【実績】

2024 年度 対象者数 3,084 人、受診者数 1,449 人
要精密検査 423 人、要精密割合が 29.2%

2025 年度 対象者数 2,684 人、受診者数 1,252 人
要精密検査 392 人、要精密割合が 31.3%

【評価】

- ・約半数が受診し、心不全リスク自覚のきっかけになっている
- ・2 年連続で受診者の 3 割にリスクが認識され、医師会協力で医療につながる事ができたという。

【課題】

- ・約 3 割が要精密検査と比率が高く、125pg/ml という基準値が適正か検証が必要
- ・対象が 1 年齢だと比較検討が不可能

【新たな展開】・

府中市との協議の結果、2024 年度から市の「心不全予防啓発事業」に進化、当初 75 歳を対象としてスタートしたが、府中市医師会から「より早い段階で心不全リスクを把握することが予防の観点から重要」と助言があり、2026 年度から 65 歳も対象に加えた。「高齢者にライフステージが変わる 65 歳を選定」し、事業のレベルアップを図った格好だ。

所 感 等

(意見・課題・
本市への反映など)

本市の心不全発症状況を確認しようとしたところ、八王子市の心不全罹患者数について統計的なデータがないのが実態という。しかし、日本における罹患者数が120万人と推定されており、八王子市の人口に按分すると、約5,600人ということだ。

本市の人口に比して1%程度という数字をどう取るか主観に負うところも多いと思うが、心不全という病気が高齢者に遍在することを鑑みた時、決して低い水準ではないと思われる。がんの罹患者数が全国で100万人と言われていることから、心不全がいかに身近な病気であるかがわかるというものだ。

しかし、心不全対策として本市が国保の被保険者向けにやっていることはなにかというと、基本的に特定検診における心電図検査のみ。これだけでは心不全を見逃してしまうケースが現実にある。

また、心電図などで心不全が疑われる場合、保険診療でBNP検査を実施し、その結果が悪ければ循環器につなげるという流れだが、これでどれほどのタイムロスになるか。第一、心電図検査からBNP検査に移行し、循環器で診てもらおうケースがどれほどあるのか、市は把握していないとの議会答弁があった。

血液検査の際、NT-proBNPの測定を加えれば、一瞬で心不全リスクを確認することができる。

そもそも、心臓を専門的に診てもらおう循環器という専科は、一般的には非常に遠い存在でもある。高齢者の病気による死因の1位が悪性新生物(がん)、2位が心疾患、3位が脳血管疾患といわれる。本市の国保の特定検診には肺がん、乳がん、大腸がん、子宮頸がんなど本人負担もあるが、メニューに加えている。脳ドックも年一度の特定検診との振り替えとして、費用的に一部ではあるが、助成をするようになった。

3大疾病の中で心疾患だけは、早期発見、重篤化予防の面であまりにも対策が薄いと言わざるを得ない。罹患者の苦しみ、不安をきちんと認識し、不足を見直すべきだ。

府中市が榊原記念病院のサジェッションを受け、心不全リスク検査を実施し、既に2年以上に及ぶ貴重なエビデンスを保有している。このことから府中市の取り組みを謙虚に学び、市民の健康と命を守るため、本市所管は前向きな一歩を踏み出してもらいたい。心不全リスク検査の費用助成は、スタート当初は全額でなくてもいい、一部助成でもいい。それでも大きな成果を生み出すことを訴え、今回の視察報告とする。

視察の様子

